

*自然との関わり・生命尊重
*自立心
*言葉による伝え合い

3 ねばり強く取り組もう

<虫と遊ぼう> 5歳児 Ⅰ期

ねらい ◎身近な生き物に触れ、その特徴に興味をもちかかわることを楽しむ

◎生き物の生態の特徴や変化する姿をとらえ、好奇心や探究心をもってかかわろうとする

「それ取って、ここに入れて！」

○大きいクラスの幼児たちに憧れ、自分もほしい、やってみたいという気持ちをもつ。
△つかみたいけれど、つかめない気持ちを受け止め、つかむことができるよう支援していく。

つかむことができる

「つかめた！私もできた」

○ダンゴムシをつぶさないように、指先の力を調節してつかまえられるようになる。
▲手指の力の入れ方を調節するという難しさがおもしろさにつながり、「もっとやりたい」と遊びが継続している。

つぶさずつかもうと工夫する

「僕もやってみよう！」

○つかもうとチャレンジしている幼児や、つかめるようになった幼児を見て驚いたり、憧れる幼児がいる。
★カブトムシと関わることでできる場をつくり、扱いやすい木の枝など置いておく。
▲つかめなかったカブトムシをつかめたことが、自信となった。

ひっかかれずつかもうと工夫する

「こんなことできるかな？」

○カブトムシを歩かせたり、ぶら下がらせたりしている。
★図鑑を用意し、生態の特徴をつかんだり、知ることで愛着を深めたりできるようにする。
▲飛んで逃げたり、引っかかれたりするたびに、関わりを試しながら、カブトムシの習性を知り、付き合い方を探っている。

セミもつかまえられるよ

発展



生態に気付く



新たに捕まえることに挑戦する

遊びの中の豊かな学び

- 虫の習性や生態などに興味をもち、集めたり飼育したりしてかかわり、大切にしようとする姿が見られる
- 調べたり、伝え合ったり、身近な人から話を聞いたりすることを通して、自分では気付かなかったことを知り楽しんでいる
- 虫をつかみたいと挑戦し、繰り返し楽しみながら遊びを広げている

評価の観点

- 主体的に虫にかかわろうとしているか
- 生き物の不思議や命があることへの気付きが生まれ自然への愛情や大切にしようという気持ちにつながっているか
- 友だちや教師、身近な人との関わりを通して遊びを膨らませているか

2歳児
ダンゴムシをつかまえよう



大好きな大人とともに自分の心動くものを見つけ、存分に楽しむことで次への意欲を膨らませている。

「うわ！動いてる」

○ダンゴムシに興味をもち動きや変化をとらえて友だちと見せ合ったり、教師に伝えたりする。
▲かかわることで変化するおもしろさや不思議さが更に興味を掻き立てている。

「こんなところにも、いたよ」

○ダンゴムシ集めにいろいろなところを探す友だちの姿から、興味をもつ幼児が増える
▲教師もいろいろな場所(石の下・枯葉の下等)と一緒に見つけて楽しむ。
★絵本や図鑑など用意して一緒に見る。

もっとやりたいと挑戦する

「私のカブトムシ！」

○たくさん生まれた幼虫を家に連れて帰りたいと、ケースに入れもち帰り、大切に育てる。
▲保護者にも飼育に協力してもらえたことで、保護者や友だちと共感する場面が増え、幼児のカブトムシへの愛着も深まった。

「戦いだ！」

○虫好きの幼児たちが集まって、カブトムシを戦わせるなどの遊びが始まる。
▲限られた数のカブトムシを友だちと一緒にいかに遊ぶか、工夫し繰り返し楽しんでいる



虫との遊び方を工夫する

○虫をつかむことができた自信や興味の広がりから、セミ取りにも挑戦する。木に止まるセミを根気強く探し、網でセミ取りにチャレンジしている。